

環境整備

1 ねらい

子どもたちの英語に対する興味・関心を高められるよう、国際タイムを基本としながらも、学校の日常生活の中で恒常的かつ自然に英語及び外国の文化に触れられるような環境作りを図る。

— 「聞く」「話す」活動を中心とした、聴覚による環境作り —

2 内容

(1) 英語による校内放送（昼の放送）

放送委員会が行っている昼の放送は、給食時ということもありどの学年も放送内容をよく聞いている。通常は各員会からのお知らせや月の歌などの紹介をしているが、ALTによる昼の挨拶や給食のメニューを英語で行う。それに合わせ英語の歌も紹介する。これは ALT の勤務日や時間帯の都合にもよるが、一斉に子どもたちの耳に入り、英語でのメニューを実際に食しているという具体性が図れる。

ALT による給食時の校内放送

- ・回数：週1回（毎週月曜日）
- ・内容：挨拶，給食のメニューの紹介，英語の歌の紹介

放送の様子



放送の台詞（実施例：9月13日）

放送委員会「毎週月曜日はジェームス先生に登場して頂きます。」

ジェームス「Hello,everyone.」

「Today February seventh.」

「Today 's lunch menu 」

「 mugu rice（むぎごはん） tofu soup（とうふスープ）

pork roast（豚肉の焼き肉） strawberry（いちご）

vegetable frizzle（野菜炒め） milk（牛乳） 」

「 This menu tastes very nice. 」

後は英語の音楽を流す

（2）文化理解を中心とした国際理解に関する掲示

英語の言語としての情報でなく、英語圏を中心とした文化の紹介を行う。英語を楽しく使っていくことと、英語圏の生活文化に興味・関心を持つことは相互に密接な関わりを持ちながら、相互に補い発展させていくものであると考える。方法的には下記の2つを進めていく。

各学年で実施している国際交流集会での写真や資料等の掲示

場所：各学年のオープンスペース

担当：各学年



3年生

国際交流活動をもとにして、韓国や中国のあいさつの仕方や、いろいろな言葉の紹介です。

4年生

日本の遊びと比較しながら外国の遊びの紹介です。



全校に関わる文化理解に関わる掲示

場所：多目的ホール

担当：環境整備部



アメリカの学校の様子について紹介している。見ながら学んだところで、クイズ形式で答えるところもある。

(3) 教材・教具の保管整備について

国際タイムや・国際交流活動のなかで、子どもたちの興味・関心をもたせ、意欲的な活動にしていくためには、その活動を支える教材・教具は重要なポイントになる。そのためには、教材・教具が全学年に渡って利用しやすい環境を整えることが必要になる。

場所

- ・カードなどの紙類 多目的ホール北東の棚
- ・中小規模の物 多目的ホール北側の棚
- ・大きな物 1年西の教材庫

棚にあるジャンルなど

- ・複数学年に共通して使用できるものはジャンルごとのかごに入れる。
- ・ジャンルに属さない物、ジャンルに入っても学年の独自性のある物などは学年のかごに入れる。

動物	野菜	果物	食べ物	魚・肉
動作	気持ち・体調	曜日	月	買い物
科目	体・顔	数字	反対語	時間
家族	スポーツ	クリスマス	ハロウィン	1年
2年	3年	4年	5年	6年

小物類

ハロウィン（人形，カボチャ），クリスマスツリー，空き缶，アイマスク，お盆，輪，はえたたき，地球儀，ブラックボックス，ぬいぐるみ，果物の陶器

大きな物

カメラ，シャワー，電子レンジ，トイレ，バスタブなど

3 年間をふり返って

《 英語放送に関わって 》

- ・ALT による給食のメニューの紹介は，忙しい中でも ALT の人柄にもより，確認後は毎週実施することが出来た。時には ALT が自主的に放送してくれたときもあった。ただ，英語の音声のみなので分かりにくいときがある。スタジオからのカメラ放送で ALT の表情や，メニューの実物もしくは絵などを見ながら英語で聞くとより分かりやすくなる。
- ・英語の歌は全学年にとって分かりやすいものがよいが，ALT の登場の時はテーマソングのように扱っても良い。また，国際タイムで活用した物を利用していきたい。
- ・ALT の都合がつかないときも考え，英語に関わる市販のビデオ放送やアニメ放送なども考えられる。（英語に関わる教育番組の録画放送もある）

《 掲示について 》

- ・英語の文字を用いず，文化理解の面から興味・関心をもてるよう写真やクイズなどで分かりやすくする必要はある。また，単に視覚的に見るという事のみでなく，掲示物をきっかけに試してみる，触れてみる，行動してみるなど参加型に関われるものも考えていきたい。
- ・各学年によるオープンスペースの掲示は，学んだことが掲示を通し思い出すきっかけになっている。また，みんなで取り組んでいるという意識付けにもなっている。

《 教材・教具について 》

- ・有効活用するにはどこに何があるのかということ把握している必要がある。日頃から国際タイム等の内容を考えるとき，教材・教具を見ておくことがポイントになる。

《 その他 》

- ・放送，掲示など子どもたちがそれに対してどんな意識を持っているのか意識調査が必要になる。それをもとに，放送や掲示のあり方の方向性も見えてくる。
- ・ALT との関わりが国際タイム等の設定されて時間のみでなく，休み時間等いかに日常的に自然な形で交流が図れるか，子どもたちへの働きかけや意識調査が必要になる。
- ・学んだ英語を実際に外国の方を通して活用していく場がほしい。実際には国際交流の場では活かされているが，ALT 以外にもその場を求めていきたい。（例：インターネットを用いた外国の方，地域の外国の方など）
- ・英語への抵抗感を無くし楽しいという雰囲気をもたせ，教師自身が身をもって示していくことが生きた人的環境としても大切になる。